

令和6年度和歌山県地域と学校の連携・協働体制推進事業に関する報告(放課後等子ども教室分)

課題の詳細	左記課題の解決のために 本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標 (アウトカム)	目標の達成度を 測る指標	現状の数値	単位	本年度の 目標値	本年度の 実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)
現在、3つの地域(鮎川、龍神、稲成)でふれあいスクール(放課後子ども教室)を運営している。 1026.91km ² という広い市域の中で各地域を取り巻く状況はそれぞれ異なるが、市全体として少子高齢化・核家族化をはじめとする社会情勢の変化により、世代間交流の減少や地域社会における人間関係の希薄化が進み、伴って家庭や地域の教育力低下が懸念される中、次の世代を担う子供たちが心豊かにたくましく成長できるような体制や環境づくりが求められている。	3つの地域(鮎川、龍神、稲成)において、多様な経験を持つ地域の方々と協働活動指導員や協働活動サポーターとして配置し、子供たちに工作やスポーツなど様々な体験・交流・学習活動の機会を提供する。	事業を通じて、次の世代を担う子供たちが心豊かにたくましく成長する。 また、子供たちと大人の交流が生まれ、地域コミュニティが充実する。	ふれあいスクール(放課後子ども教室)への参加児童数 (全体延べ人数)	405	人	450	412	令和6年度は3つの地域(稲成、龍神、鮎川)で事業を実施。 各教室においては、地域の人材や自然環境などそれぞれの特色を生かしながら、各家庭では体験することが難しい、多様な体験・交流・学習活動に触れる機会を児童に提供した。 より多くの児童に参加してもらえるよう、小学校を通じて対象児童にチラシを配布したほか、参加児童に対する声掛け(次回内容を周知し、参加していない友だちにも参加を促してもらう等)を行った。 幅広い学年を対象とした企画や参加児童の要望も踏まえた新たな企画を実施し、令和5年度よりも参加児童数が2割増加した地域もあった。 しかし、本年度の実績値は412人となり、目標値に対する達成度は91.6%と、本年度の目標達成にはやや届かなかった。 その要因として、人口減少に伴う児童数の減少があり、さらに山間部かつ対象エリアが広範囲にわたる地域においては、児童が広く点在し、活動参加に保護者の送迎を必要とすることが影響しているものと考えられる。 そうしたことから、今後大幅に参加児童数を増加させることは難しいと思われるが、左記「課題の詳細」に示した状況にあるからこそ、本事業を継続し、児童に多様な体験・交流・学習活動に触れる機会を提供する必要があると考えており、事業の周知児童の希望を取り入れた企画の検討(事業の見直し、児童の興味・関心を惹くための工夫)、地域住民に協力を得るための工夫を凝らすなど、課題解決・目標達成に向けてより効果的な実施に努めたい。